

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900904		
法人名	有限会社 沙蔵		
事業所名	グループホーム花音		
所在地	熊本県八代郡氷川町宮原588-2		
自己評価作成日	平成22年04月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成22年6月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホーム内だけでなく、「いきいきサロン」を立ち上げ、地域の高齢者福祉の交流の輪を広げている。
 ・「子どもと高齢者が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくり」を目指すと共に、その思いを地域や行政等に発信している。
 ・スタッフが安心して働ける職場の体制を築き、拘束や虐待のないケアを実践している。
 ・ホーム内外において「音楽セラピー」や慰問活動を通じ、認知症の理解と普及に努めている。
 ・食事前後の手洗い・口腔ケアを徹底し、清潔保持と感染予防に取り組んでいる。
 ・ホームは神社の目の前に位置し、日常から散歩や参拝に出かけ、心のよりどころとなっている。
 ・近日中に「訪問看護ステーション」の利用を予定しており、利用者・家族・スタッフの安心に繋げる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年を迎え、管理者であるオーナーが地域交流に力を入れることで、地域のいきいきサロン立ち上げに貢献されているようです。事業所として訪問看護ステーションとの医療連携を取り入れることで、利用者の健康管理の充実を図られています。管理者のみならず、利用者・家族、職員と協働し、今後もより一層、地域に根ざした事業所運営や、介護の質の向上に向けた取り組みを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初にスタッフと共に作り上げた「理念」は変わらぬ思いとして大切に共有・実践されている。	開設当初からの理念を大切にされ、新入職員へは就職説明会や面接時に事業所理念を伝えるようにされています。また、月1回管理者が理念を元にした標語を作成し、毎朝、利用者、職員と一緒に唱和し、より一層理念の共有が図られているようです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年7月に、ホームの位置する地域の「いきいきサロン」を立ち上げ、利用者、職員も交流を深めている。	地域のいきいきサロン立ち上げに貢献することで、地域と事業所との関係をより身近なものにするよう努力されています。いきいきサロンには利用者、職員の参加も時々あるようです。	管理者のみならず、事業所全体としての地域交流がより一層深いものになることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「いきいきサロン」やホームの庭で、地域住民参加による「認知症研修」を行い、また、「認知症サポーター養成講座」に音楽セラピーとして演奏したり、施設への慰問を通じて、認知症の理解と普及活動を継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のみならず、日頃から地域住民や役員、商店街やPTAの方々等と話し合う機会も多く、たくさんの助言を頂きながら、ホームケアの質の向上や地域活性に繋がっている。	管理者がいきいきサロンのリーダーとしての役割もあり、地域の民生委員や老人会長等も運営推進会議のメンバーも兼ねておられることもあり、いきいきサロンの会議と事業所の運営推進会議を合同に月1回の会議が行われているようです。	地域交流を深めるために合同で行われていることも多いようですが、もう一度運営推進会議が事業所にとって、どういった意味をもつか検討され、2ヶ月に1回開催の義務を遂行されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「いきいきサロン」や「介護認定審査会」「福祉計画委員」に携わることで、日頃から市町村担当者とは協力・相談を行っている。	運営推進会議を始め、地域のいきいきサロンや、日常的な相談等、市町村との連携が持たれているようです。地域包括支援センター等との協力の下、グループホームから在宅生活へ移行された利用者の方もおられるようです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内でも勉強会を開催し、利用者の安全確保が必要な時、見守り・付き添いを行い、できる限り施錠しないように努めている。	「無理矢理介護はしない」をモットーにされ、身体拘束をしないケアに取り組まれています。拘束をしないことで信頼関係が築かれていく対応があることを、管理者自ら実践するよう心掛けておられるようです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で勉強会を開催し、理解と啓発を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は、ホーム内外の勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭と文書による説明を十分行ったうえで同意して頂くと共に、同意書を取り、理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や訪問して、定期的に要望をお聞きしている。家族に安心して頂けるように「訪問看護ステーション」の利用を検討している。	面会時や毎月自宅訪問する機会もあり、その際に意見等を聞くようにされています。利用者・家族の意見をもとに訪問看護の導入など医療連携の強化に努められているようです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は介護に携わり、日常的に職員の意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	些細なことも毎日のカンファレンス等を利用し、意見交換が行われ、月に1回のカンファレンスで、運営や業務への取り組み等について意見を聞く機会が設けられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場の労働環境整備を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年より、熊本県宅老所・グループホーム連絡会／八代ブロック会の代表世話人を務め、介護スタッフが気軽に参加できる勉強会と交流の機会を築けるよう計画・実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には、まず、ご本人が安心できるようにコミュニケーションを十分にとり、信頼関係を築くことを第一に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期は、家族とご本人にホームを見学して頂き、思いを傾聴、受容し安心して頂けるよう接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、馴染まれるまでには時間がかかり、ご本人を主体に考え、理解と納得して頂ける接し方を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの利用者様は、スタッフにとっても家族同然の信頼関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のケアには、家族の愛情が必要なことを常日頃から伝えと共に、面会や定期受診付き添いをお願いし、絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者同士が同級であったり、元職場の同僚が慰問に来られるなど、また、定期的に家族によるドライブや自宅外出などの支援や、関係の維持が図れている。	馴染みの関係が途切れないように、自宅への外出支援等が家族で行われるための連絡調整を実施し、支援方法等が検討されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方が見守りを行い、また、気づきがあるとスタッフに報告してくれるなど、協力と互いの関わり合いが観られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院者の見舞いや定期の手紙のやり取りも継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者様と話し、寄り添う時間を確保しながら、心の声を聞くことができるよう努めている。	家族の話や本人の状況等を確認しながら、思いや意向を把握するようにされています。	今後もより一層、思いや意向を利用者に関わる全員で共有されていかれることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活やサービス内容を把握し、より一層に満足できる関わりができるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの利用者別に、体調や精神面の状態に応じた個別のケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の会議を開催し、モニタリング実施や意見をまとめ、介護計画に反映している。	介護支援専門員である管理者が職員の意見をもとに介護計画をたてられ、家族や担当者等と共有するようにされ、毎月のモニタリングが行われています。	介護計画をもとに排泄や入浴の個別手順書が作成されています。今後も職員と共有されたより深い個別手順書となることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日誌、申し送り表などの記録等は、確認しやすい工夫を施し、最新の情報が共有できるように配慮し、より適切な対応ができるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の介護や医療に対し、安心して頂けるように「訪問看護ステーション」利用の準備を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子どもたちや知人が、慰問や面会に来られるなど、また、家族や職員宅の犬を連れてきて触れ合うなどの支援ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師や福祉関係者、家族と共に、本人を主体とした適切な援助ができるように支援している。	基本的に家族による受診支援が行われ、状況に応じて事業所による受診支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近日中に訪問看護の利用を予定している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族と話し合い、本人主体の対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	只今、訪問看護ステーション事業所と方針の構築を進めている。	事業所として重度化や終末期に向けた支援を行う考えはあるようです。職員、訪問看護、家族、主治医等と話し合いながら対応できるシステム作りを検討中のようです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の備えを含め、訪問看護事業所の助言をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の役員であり、現在も消防団との交流もあり、災害時の話し合いができており、緊急時の応援担当者も配備してある。	消防署参加のもと火災訓練が行われています。事業所の規模からスプリンクラーの設置義務はないようです。緊急時の一次避難先も近くの神社と職員で共有はできているようです。	オーナー管理者の自宅が事業所の2階にあり、非常時は直ぐに対応できる体制があるようですが、避難したあとの利用者の保護方法等も検討され、避難訓練がより一層現実味をもったものになることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についてのホーム内での勉強会を開催しており、問題があれば注意を促している。	日常の言葉かけや、大きな声で排泄の事など話さないように等、その事に職員一人ひとりが気づき対応することになれば、プライバシーが守れることになるのではとの思いで、職員への指導を行うようにされています。	カンファレンスや勉強会がなされる場面で利用者の方の個人名や個人が特定できることはないのでしょうか、事業所内では常に利用者の存在を意識することが大切です。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに言葉かけを行い、触れ合いを通じて思いを引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全に配慮し体調を観ながら、できる限り本人の自由に行動して頂き、見守り重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつ外出やご家族等の面会があってもいように、身だしなみには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	口腔状態や排泄状況、体調を観ながら、必要時は一部介助し、できるだけ自力摂取して頂き、安全の見守りを行いながら下膳、茶碗拭きなどして頂いている。	食事や水分が取れない利用者の方にもミキサー食を始め、試行錯誤しながら栄養補給等ができるよう取り組まれています。	利用者の身体面を考慮することは大切ですが、食事が楽しいと思って頂けるように、一人ひとりに添った支援方法を深められることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の水分も含め、1200ccの水分摂取を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事前後に実施しており、理解困難や拒否、抵抗のある方にも時間をかけ、無理強いしないよう心がけ対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるように小まめの誘導を行っている。排泄の習慣化できるよう時間をかけ支援している。	トイレ誘導を行い、排泄動作の維持や向上に努められているようです。尿量測定が必要な方は一時的にポータブルトイレ使用が行われています。	トイレ誘導されていた方が、尿量測定終了後もポータブルトイレの使用をされていることが、排泄の自立に繋がる行為なのか今一度検討されることも大切です。安全の為という名のもとに介護者の安楽をもとめることは介護の質の低下にも繋がります。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保と、運動や健康食品等の飲用、また、医師の助言を頂きながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	衛生面に配慮し、基本的に1日置きの入浴を支援しているが、皮膚の状態や清潔保持の為に毎日入浴を実施したり、無理強いにせず翌日入浴するなど、臨機応変に対応している。	1日毎の入浴を基本とされ、週3回～4回入浴を楽しむ機会を持たれています。入浴拒否の方には、入るまでは無理強いせず、ゆっくりとした対応を心掛けておられ、湯船につかると楽しまれている方も多いようです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間時の睡眠状況や体調を観ながら、また、活動量の多い方については、できる限り、昼間に無理をされないように休息や仮眠の促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように、また、確薬できるよう確認と介助を行うと共に、必要時は医師や薬局に助言を頂きながら、服薬については細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家政については皆さん習慣として、手伝われる場面がよく観られ、好きな歌の合唱は、ホームを開設して以来、1日も欠かさず実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に花見やドライブ、買い物や管理者の所用の付き添いに参加して頂くこともある。	週2回位の近所への散歩支援が行われ、外出を嫌がる方は、管理者が用事で外出する際に、お手伝いという形で同伴依頼し、外に出る機会を作られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持している方は1名で、神社参拝時の賽銭や、時々、健康食品や雑貨の支払い時に手助けしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの自宅外出の電話連絡を楽しみにしている利用者様がおられ、取り次ぐこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は不快な匂いもなく明るい雰囲気であり、皆さんが集うリビングには、笑顔を誘う「赤ちゃんの油絵」が飾ってある。	リビングや廊下には油絵が飾られています。不快な匂いや刺激はなく自然の光が入ってくるリビングです。職員と利用者が一緒に共有空間がくつろげる場所となるようにソファ等の配置がされています。	自然の花や玄関の掲示物の張り替え等、一寸した気配りも大切です。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	北側と東側廊下にはソファを置き、外の景色を眺めながら、くつろがれる場면을日常的に観ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で過ごす時間が比較的多い利用者の方については、ご家族が過ごしやすい部屋の雰囲気作りをして頂いている。	ベッドやタンス等が配置され、掲示物等もありますが、利用者の個性が少ないようです。	共有空間の居間で過ごされる利用者の方が多いようで、泊まりの部屋という雰囲気があります。その人の個性や思いを居室空間作りに活かされる事を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やお風呂等には表札を下げ、夜間時、トイレは分かるように明かりを付け誘導を促している。		